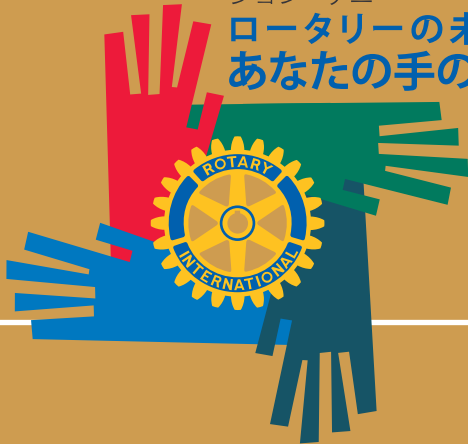


2009～2010年度 国際ロータリーのテーマ
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は
あなたの手の中に



会長／対馬健一 幹事／中出敏彦

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

プログラム

- 本日
年次総会
- 次週予定

ご夫人誕生日

- 11月26日 武井 宏子
- 11月27日 渡邊 順子
- 12月1日 山本由紀子

No. 2397

第20回 11月25日

出席報告

前例会

会員総数	43名
出免会員	4名
出免出席	2名
出席会員	34名
出席率	82.93%

前々会

第17回 11月4日

出席会員	33名
メイクアップ	2名
修正出席率	80.95%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

会長報告

- 本日臨時理事会を開催し、来年4月11日開催のIM実行委員会の組織・実行委員と、来年度開催の50周年実行委員会組織と各委員長案を承認致しました。

幹事報告

- 1) 砂川RCより例会変更のお知らせが届いております。12月16日夜間例会のため18時30分に変更、12月23日法定休会、12月30日クラブ指定休日。

ゲスト

(財)そらぶちキッズキャンプ
事務局長代理 佐々木健一郎様

委員会報告

創立50周年記念式典実行委員会

平井実行委員長

先般、私がクラブ創立50周年記念式典の実行委員長に指名されお引き受けすることになりました。もとより高齢に過ぎる私にとっては不似合いのポジションと思いますが、会員皆様のご指導ご協力のもと、責務を果たすべく努めて参りたいと思います。

実行委員会の早期立ち上げも望まれておりますので、この程50周年準備委員会の方々との協議の上、実行委員会の役員と委員長を先ず選出させて頂き、本日の臨時理事会にてご了承をいただきました。その任に色々ご意見もあろうかと思いますが、曲げてご了承くださるようお願いいたします。なおクラブ全会員による実行委員会構

第19回 11月18日(水) 天候/雪

成は後日改めて発表させていただきます。どうぞよろしくお祈りします。

＝留萌RC創立50周年記念式典実行委員会＝

実行委員長 平井 誠治
 副実行委員長 渡部 英次・澤田 茂
 式典幹事 高田 潔
 式典SAA 中出 敏彦
 総務委員会 委員長 清水 陞
 副委員長 対馬 健一
 登録委員会 委員長 田中 公一
 記録委員会 委員長 鈴木 康伸
 式典委員長 委員長 高田 潔
 会場委員会 委員長 河部 勲
 記念事業委員会 委員長 佐藤 潔
 接待委員会 委員長 中川 勝美

.....

2009～2010年度RI2510地区

第1グループIM(仮称)実行委員会

日時 平成22年4月11日(日)
 場所 留萌産業会館

ガバナー補佐 田中 公一
 ガバナー補佐室長 清水 陞
 クラブ会長 対馬 健一
 クラブ幹事 中出 敏彦
 実行委員長 河部 勲
 副実行委員長 二ノ宮清信・鈴木 康伸
 GSEコーディネーター 西谷 英樹
 SAA 久木 隆生
 会計 松崎 裕三

<委員会構成>

総務委員会
 委員長 森 俊二
 副委員長 申橋 伸幸
 委員 清水 陞・中川 勝美
 大嶋 孝広・西谷 恭治
 登録委員会
 委員長 清水 陞
 副委員長 森 幹雄
 委員 平井 誠治・越野 俊興

澤田 茂・佐藤 潔
 佐藤 寛明

会場委員会

委員長 西谷 恭治
 副委員長 高田 潔
 委員 関野 政人・齋藤 清藏
 山本 譲二・原田 功
 明澤 正樹・吉田 清治
 松田 宏幸・宮尾幸之助
 齊藤 敏夫

接待委員会

委員長 中川 勝美
 副委員長 渡邊 裕久
 委員 行徳 幸治・遠藤 光一
 佐藤 喜一・松村 孝二
 武井 哲・角 隆巨
 佐々木 繁・古野 晃洋
 高橋 理佳

国際委員会

委員長 大嶋 孝広
 副委員長 西谷 英樹
 委員 渡部 英次・深瀬 晏男



- ・そらぷちキッズキャンプ募金下期もご協力お願いします 対馬会長
- ・来年4月に開催予定のIM実行委員会を発表しました よろしくおねがいします 河部会員
- ・事業物件完成しました 関野会員
- ・本日ワールドワン10周年を迎える事が出来ました クラブ会員にも支えていただきありがとうございました 西谷(英)会員
- ・マージャン大会準優勝 大嶋会員
- ・マージャン大会1位 森(俊)会員

前回 460,000円
 今回 21,000円
 累計 481,000円

プログラム……………

「そらぶちキッズキャンプについて」

そらぶちキッズキャンプ

事務局長代理 佐々木健一郎様

本日はこのような場でお話をする機会をいただき、誠にありがとうございます。会長さん並びに関係者の皆様にお礼を申し上げます。本日は私どもの財団の事を自己紹介を兼ねてお話をさせていただきます。



一般財団そらぶちキッズキャンプですが、皆様のお手元に配付している資料の中に代表理事の言葉と役員が紹介されています。役員の名簿を見ていただくと少し財団の事を解っていただけたと思います。評議員には渡邊ガバナーにも入っていただいております、実質経営陣として理事が8名います。代表理事が東京聖路加国際病院の小児科医でもある細谷亮太ドクターが務め、その他東京では東京農業大学の園芸療法の教授など大学関係者もおりますし、地元でいきますと、医師会の会長さんや市立病院の院長さんや看護部長さんなどにご協力をいただいている組織でございます。その組織の事務局長代理ですので、私は現場の走り回り役で言葉を聞いていただければ分かるように出身は大阪でして、3年前に妻共々滝川に移住をしてきたばかりでございます。北海道の冬もまだようやく2回越えたばかりで、また今年も3回目の冬がくるのかと思うといやになってしまいます。

私がこのそらぶちキッズキャンプの難病とたたかう子供達の為の自然体験施設プロジェクトに関わり始めたのは、もう10年位前になります。それは私が造園コンサルタントの仕事をしており、病院の庭とか公園、バリアフリーの公園、ユニバーサルデザインのブランコとか滑り台のある公園、北海道で言いますと、大通り公園や滝野すずらん公園等の公園を設計、イベントを企画したりという仕事をしておりました。その

中で、研究の一環としてアメリカに視察に行った時、ハリウッドスターのポールニューマンさんが私財を投げ売って難病の子供達のためのキャンプ場を作られているのを見て、施設もすばらしかったのですが、やはりその自然の中で癒される子供達の笑顔とか、家族の癒された顔とか、ボランティアの人々がイキイキとしてやっている様子とか、その様な光景を見まして私も、日本の中にこの様な施設を作りたい、それが北海道で作れば一番良いと言うことで動き出しました。

難病の子供達のための診療所付自然体験施設「そらぶちキッズキャンプ」皆様の中にも、もう既にご承知の方はいらっしゃると思いますが、わが国には小児ガンとか心臓病など、難病と戦っている子供達が20万人いると言われております。小児科のドクターのお話を聞きますと、毎年200人の赤ちゃんが生まれるとすると、その中の1人の赤ちゃんがどうしても病気を持って生まれてしまう、先天性の病気を持って生まれてしまう確率だと言っておりました。200人の内の199人が自分の子供とか孫であれば良いのですが、どうしても199人の中に入れなかった1人の子供、その1人の子供を支援したい、その親御さん達の支援をしたいと思って進めております。想像していただければわかると思いますが、この子供達、抗がん剤・放射線治療を受けて入院生活を送っていますが、帰れても家族と1泊の外泊とか、そういう行き来のみのお生活をしているようです。その中で、家族も苦しみながら生活をしておりますが、彼ら子供達の夢は外で遊びたいというのが夢だそうです。外で遊ぶという事は我々子供の時には当たり前の事であったものが、それが夢だと思っている子供達がいるとすれば、私達が大好きな自然と緑の中で叶えてやれないかを考えたわけです。この丸加高原で夏キャンプ・冬キャンプを行いました、この風景は丘があり、緑があり、北海道では当たり前と思われませんが、都会の人間にすればスイスカナダのように見えて、子供達もその家族も、このキャンプで心も体も癒されて帰って行く、そういうキャンプでした。

この自然の中に安全で楽しく過ごせるような施設を作りたい、安全な医療体制、ボランティア体制、プログラムの体制、そういう物を作っている途中と考えていただきたいと思います。我々2004年からそらぶちキッズキャンプを造る会という物を作って活動して参りました。地元滝川でテストキャンプをやる中で、マスコミに取り上げていただいたり、自分達もどういう物を作っていきべきかという事を検証していった次第であります。アメリカのキャンプ、ポールニューマンのキャンプとも連携していく中で、2006年に1億7千万円の寄付をユニチャームの創業者でもある高原慶一郎さんからいただいた事で、2007年から工事が始まった次第です。

ようやく2008年に法人化をして、2009年度の今年、皆様にも見ていただけるような施設になりました。来年の工事が終わると本格的な開園となるように計画しております。2009年度2月には北海道の方から公益財団法人として認定をいただく予定です。

事業計画を少し言いますと、キッズキャンプの夏・冬休みに1週間くらい子供達を預かってキャンプをする。例えば、羽田空港で看護師ボランティアが親御さんから子供を預かって1週間後に羽田空港に返すという様な事をやっています。子供達には最高の1週間であり、親御さんや兄弟にとっても癒しの時間になると聞いています。やはり毎日の介護の疲れを少しでも癒せればという事が大事だと思います。次は北海道が中心になると思いますが、週末の家族キャンプ(金土日)とこの施設を使って家族で癒されてほしいと思いますし、子供を亡くされた親御さんや家族の悲しみを癒すキャンプもやっていく予定です。

また、施設の貸し出しでは常設キャンプ場ですので、難病のキャンプをやっていない時は北海道内の福祉施設の方、一般児童の方を含めて使っていただきたいと思っております。

16ヘクタールの土地を滝川市さんより無償でいただきました。その内牧草地や森のある所に今施設を作ったり、キャンプ場を作っております。森の案内所、自然観察の森、医療棟などの

工事が終わり、来年度は食堂とコテージ、浴場棟を建てる予定です。この施設建設費については何とか集まりましたので来年度工事が出来ると思っています。それ以下、体育館とか小劇場などは運営費がかかりますので、運営費の安定的確保ができるようになってから、施設を建設していく予定です。子供達は内臓疾患がメインですので、身体障害が出て車イスだったり、足が無かったりするものですから、一部では夜にはずっと点滴を付けていなければならない子供など、下半身を取ってしまって人工肛門の子供など、急遽吐血して北大病院に搬送される子供など、子供達も戦いながら夜はけっこう大変な状況であります。しかしプログラムではこのような笑顔を見せてくれます。

そらぶちキッズキャンプはまだまだ知られてはおりません。皆様のネットワークで、一人でも多くの方にこのようなプログラムがある事を知っていただけたらと思っております。北海道の中でもまだこのプロジェクトが知られていない所がございます。よろしく願います。そらぶちキッズキャンプにはそれ以外に、ボランティア会員登録や、そらぶち募金箱の設置協力などがございます。全国のドラッグストアに設置協力をいただき、日本チェーンドラッグストア協会という所があり、北海道で言えば、ツルハとかサツドラさんで、東京ではマツモトキヨシさんなど1万3千店舗にこの募金箱を置かせていただいています。1万3千店舗ですので1つに1万円で1億3千万円になると皮算用もいたしておりますが、現在では1~2千万円程度の募金となっております。施設建設費が集まっておりますので、これらは施設運営費がきちんと出来る仕組みを作らなければなりません。

(次週に続く)